

# 令和3年度 文京区立昭和小学校 授業改善推進プラン

## 第3学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主語、述語や指示語を正確に使って文を作れなかったり、一文が長くなったりする。</li> <li>○ローマ字表記を読み取ることはできるが、ローマ字で書き表すことは難しい。(特に長音や促音)</li> <li>○習った漢字を積極的に使わない。</li> <li>○音読ですらすらと読めないため、物語の読み取り時に叙述から読み取れない。文をまとまりで読む力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主語と述語が整った短い文章を意識して書けるように指導する。また、語彙を豊かにする指導を心がける。</li> <li>○日々の中でローマ字に触れる機会を設ける。</li> <li>○意味調べや漢字の学習の時間を確実に確保し、定着を図る。</li> <li>○授業の中で音読の時間を設定したり、挿絵を活用して物語の概要が分かるようにしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○例文を提示すると共にノート指導を通して、間違いを訂正する。</li> <li>○タイピングソフトの活用やノート等で単語を読み書きする。また、問題作りやプリントなどに取り組み、活用ができる機会を増やす。</li> <li>○継続的に漢字テストを行い、文章を書く活動の際には積極的に使うよう声をかける。また、ノート指導の中で直す。</li> <li>○叙述から正確に読み取れるように、書き取ったり、線を引いたりする活動を取り入れる。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調べたことや気付いたことを表現することの力に個人差が大きい。</li> <li>○学習によって授業の理解度に差が見られ、差が大きい傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料を提示し、まとめさせる。</li> <li>○身近な生活に着目させることで学習意欲を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料を提示するだけでなく、注目すべきポイントやまとめ方を動画やICTを活用して児童の理解を図る。</li> <li>○児童の実態に合わせ、身近な生活を提示し、関連付けられるように教材研究を行う。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○既習内容や友達のを考えを生かして、見通しをもちながら課題解決しようとする児童が少ない。</li> <li>○数学的表現や数理的に処理したことを生活や学習に活用できる児童が少ない。</li> <li>○数とその表現の仕方や、数量関係に着目し、計算の仕方などを考察する力に個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童同士の学び合いの時間を確保し、解決に向けて自分の考えをもたせる。</li> <li>○生活経験や生活場面を想定した発問をし、絵や図を用いて分かりやすく考察させる。</li> <li>○身に付けさせる学習内容を明確にし、個別に指導や声掛けを行い繰り返し指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見通しをもちながら課題解決ができるよう、学習の進め方を工夫して指導する。</li> <li>○普段の学習の中で、問題と類似する場面を日常生活から見付けたり、自分で問題を作成したりすることで数理的な処理のよさに気付かせる。</li> <li>○タブレットを活用し、個人に合った方法で指導を行う。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観察、実験において、複数の事物・現象の変化を比較することができていないため、考察が十分ではない。</li> <li>○問題解決を行う際に、多面的に考えることができていない児童が3割近くいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○差異点や共通点を明らかにさせる。見出した問題について考えさせる。</li> <li>○観察、実験などの結果をもとに、予想や仮説、観察、実験などの方法を振り返らせ、考察させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観察、実験の際、事物・現象の変化前と変化後を黒板や電子黒板等で示す。全体で見出した問題について考察させる。</li> <li>○これまでの観察、実験の全体を捉えやすいように、観察カードを時系列に並べたり、実験の写真を掲示したりする。</li> </ul>

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
体育	<p>○基本的な運動技能を十分に身に付けられていない。</p> <p>○自己の課題を見付け、その解決のための方法や活動の工夫を考えられる児童が少ない。</p>	<p>○学習内容ごとに、動きのポイントやコツを確認し、動きのよさを理解し、感覚づくりの時間を十分に確保する。</p> <p>○教師から助言や提案をしたり、児童の考えを全体に共有したりし、よりよい方法を考えさせる。</p>	<p>○体の動かし方のポイントやコツを絵やタブレットを活用し、自己の技能と身に付ける技能を比較させながら試技や練習に取り組ませる。</p> <p>○タブレットやワークシートを活用し、客観的に自己の課題を明確にする。児童同士が取り組んだ内容や成果を助言し合うことで、解決のための方法や活動の工夫ができるようにする。</p>
音楽	<p>○真面目な学習態度で取り組んでいる児童が多いが、技能面で支援が必要な児童もいる。</p> <p>○リコーダーは簡単な曲が演奏できるようになってきている。</p> <p>○楽曲を聴いて感じ取ったことを表す語彙が少ない。</p>	<p>○学習のきまりをしっかり身に着けさせる。</p> <p>○演奏の技能の向上を図り、曲想にふさわしい表現を工夫するようにさせる。</p> <p>○楽曲を聴いて音楽を形作っている要素の働きに気づき、感じ取ったことを言葉で表すことができるようにさせる。</p>	<p>○課題に対して、わかりやすく具体的に指導する。</p> <p>○学習内容を工夫し、歌や楽器の演奏の基礎基本を繰り返し指導する。</p> <p>○個別指導を大切に、個々の児童に合った言葉かけをすることを心掛ける。</p>
図工	<p>○発想することを楽しみ、豊かに表現できる児童が多いが、発想を生かすための基本的な技能に個人差がある。</p> <p>○意欲は高いが、与えられた時間の中で見通しをもって取り組むのが苦手な児童がいる。</p>	<p>○道具や材料の使い方などの基本的な技能を繰り返し身につけさせる。</p> <p>○支援を要する児童に個別に適切な対応を行う必要がある。</p>	<p>○基本的な道具の使い方を身につけさせる活動を、学習の中に繰り返し取り入れていく。画像や映像を使いながら、視覚的な資料も多く使用していく。</p> <p>○支援を要する児童に対して、個別指導を通して適切な助言を与え、題材に集中して取り組めるようにする。</p>